



第11回

JEC連合の 緑化支援ボランティア



佐々木未来

JEC連合 総務財政企画局

ひろげよう 支え合い・助け合い つなげよう ゆにふあんで!

アカマツの植林活動で 里山の風景を取り戻そう

フィリピンの子どもたちへの支援活動など、国内外において様々な社会貢献活動を行うJEC連合。そのひとつが「緑化支援ボランティア」だ。現在は東京都八王子市の長池公園で、アカマツ林の再生活動を行う。その意義や社会貢献にかける思いについて、総務財政企画局の佐々木未来さんに聞いた。

— JEC連合の社会貢献活動の取り組みは? —

毎年10月から12月にかけて加盟組合から募ったカンパを活動資金として、主に緑化支援ボランティアや海外連帯ボランティアなどを行っています。また、JEC連合の創設日である10月10日前後の1週間を「ボランティアウィーク」と定め、加盟組合の社会貢献活動を促進したり、JEC連合本部内でも社会貢献の勉強会を開いています。

「スマイル by JEC」というカンパ活動も行っており、JEC連合が支援している4つの団体に助成金を寄贈しています。寄贈先の団体からは、活動内容や助成金の使途について説明してもらい、本部門で共有しています。

— 緑化支援ボランティアの活動とは? —

最初は滋賀県高島市朽木で里山再生活動をスタートし、東日本大震災以降は、千葉県九十九里町や宮城県亘理町などで防災林の植林活動に取り組みできました。現在は、森づくりに取り組む特定非営利活動法人「森のライフスタイル研究所」と協働で、東京都八王子市にある長池公園のアカマツ再生プロジェクトに携わっています。

長池公園にはもともとアカマツの原生林が広がっていたのですが、時代とともにアカマツが減ってコナラが増えたのですが、コナラ枯れ病々という伝染病で枯れる木が目立つようになりました。公園管理の方々には、長池公園の原風景であるアカマツ林を取り戻したいという思いもあつたそうです。「森のライフスタイル研究所」からその話を聞き、エネルギー産業に携わるJEC連合の「森林再生への取り組みを大切にしたい」という活動の趣旨と一致したので、ぜひ協力したいと思いました。

長池公園は広いので、植林は4年計画で実施します。1年ごとに

区画を広げ、150本ずつ苗を植えていく予定です。長く継続してできる支援がいいと思っていますので、この点も私たちの希望と合致していました。第1回だった去年は、8単組から20名が参加してくれました。苗を植える前、そこらじゅうの土に硬い根が張っていたので、それを切るのが一番大変でした。雨が降る中、みんな汗だくでお互いに助け合いながら作業しました。最後は一緒に頑張った仲間としての連帯感が生まれ、多くの方に「いい経験ができた、また来ます」と言ってもらえたのが印象に残っています。今年もすでに30名以上の申し込みがあり、中にはリピーターの方もいます。

— 社会貢献活動の意義、それに取り組む原動力は? —

社会貢献活動に興味があっても、自分にできることを自ら探して行動を起こすのはなかなか難しいと思います。私自身も社会貢献活動の担当になるまではそうでした。でも「こういう活動があるんだ」ということを知ったり、一度でも参

加してみたりして「もっと何かの役に立ちたい」という意識が芽生えることもあるのではないのでしょうか。加盟組合の方々がそういう気持ちになってくれたらうれしいなと思います。思いながら活動しています。

— ゆにふあんへの要望や活用についてのアイデアがあれば教えてください。 —

ゆにふあんなは「つながり」だと考えています。組織を越えて人と人がつながり、それがどんどん広がっていくようになればいいなと思っています。私たちが、小さくてもそのつながる力の一部になれるよう、頑張りたいです。

私が社会貢献活動に取り組むようになったきっかけは、動物保護でした。家で5匹の保護猫を飼っているんですが、ゆにふあんでも栃木県で犬猫殺処分ゼロをめざして活動している「わんにゃん応援団」に個人的なカンパをしています。いろいろな社会貢献活動があることを、ゆにふあんを通して多くの人に知ってもらいたいのですが、まだまだ周知不足だと感じることが多いので、これからも努力していきたいです。

活動体験記

第2回

長池公園アカマツ植林

@東京都八王子市

2022年4月16日(土)、アカマツ植林の現場にお邪魔して、作業の様子を取材させていただきました。晴天に恵まれた絶好の植林日和のもと、参加者の家族を含めて31名が集まり、一緒に汗を流しました。



全



JEC連合・酒向会長

員がヘルメットに手袋、長靴を身に着け、クワを片手に植林エリアに到着。JEC連合・酒向会長の挨拶では、エネルギー産業に携わるJEC連合が森林再生に取り組むことの大切さについてお話がありました。



目印を事前に付けておいてもらいましたが、2年目である今年は、みんなで目印を付けるところからスタート。木の棒で間隔を測り、赤い色の付いた割り箸を土に立てていきます。目印を付け終わったら、今度はクワで土を掘り、苗を植えます。植えた後は、苗の周りの土を足でしっかり踏み固めるのがポイントです。今回は家族連れの参加者も多く、大人から子どもまでみんなが一生懸命に目印を付け、土を掘り、苗を植える姿が見られました。

参加者の声

関西ペイント労働組合

職場の仲間と3人で、初めて参加しました。こういう場に来る機会がなかなかないので、いい気分転換になりました。お天気もよくて気持ちいいですね。クワで土を掘る作業も、全く苦になりませんでした。私は技術職で、普段から20kgの荷物を持ったりしているおかげかもしれません。



思っていたより簡単でした!



土を掘る時にやりたいところがあったけど、楽しかったよ

コスモ石油労働組合

娘と息子を連れて、初めての参加です。植林って、やろうと思ってもなかなか機会がないですね。これをきっかけに子どもたちが自然保護に興味を持ってくれるかもしれないと思って参加を決めました。二人とも楽しんでやってくれたようなので、来てよかったです。

太陽日酸労働組合

委員長から声をかけられて参加しました。土日はたいして子どもを連れて遊びに出かけるので、それと同じような感覚で連れてきました。うち以外にも子連れで参加している家族がいて、お互いの子どもの面倒を見合いながら協力して頑張りました。



苗を植える時が一番楽しかったよ 初めてのやったからすごく楽しかった!